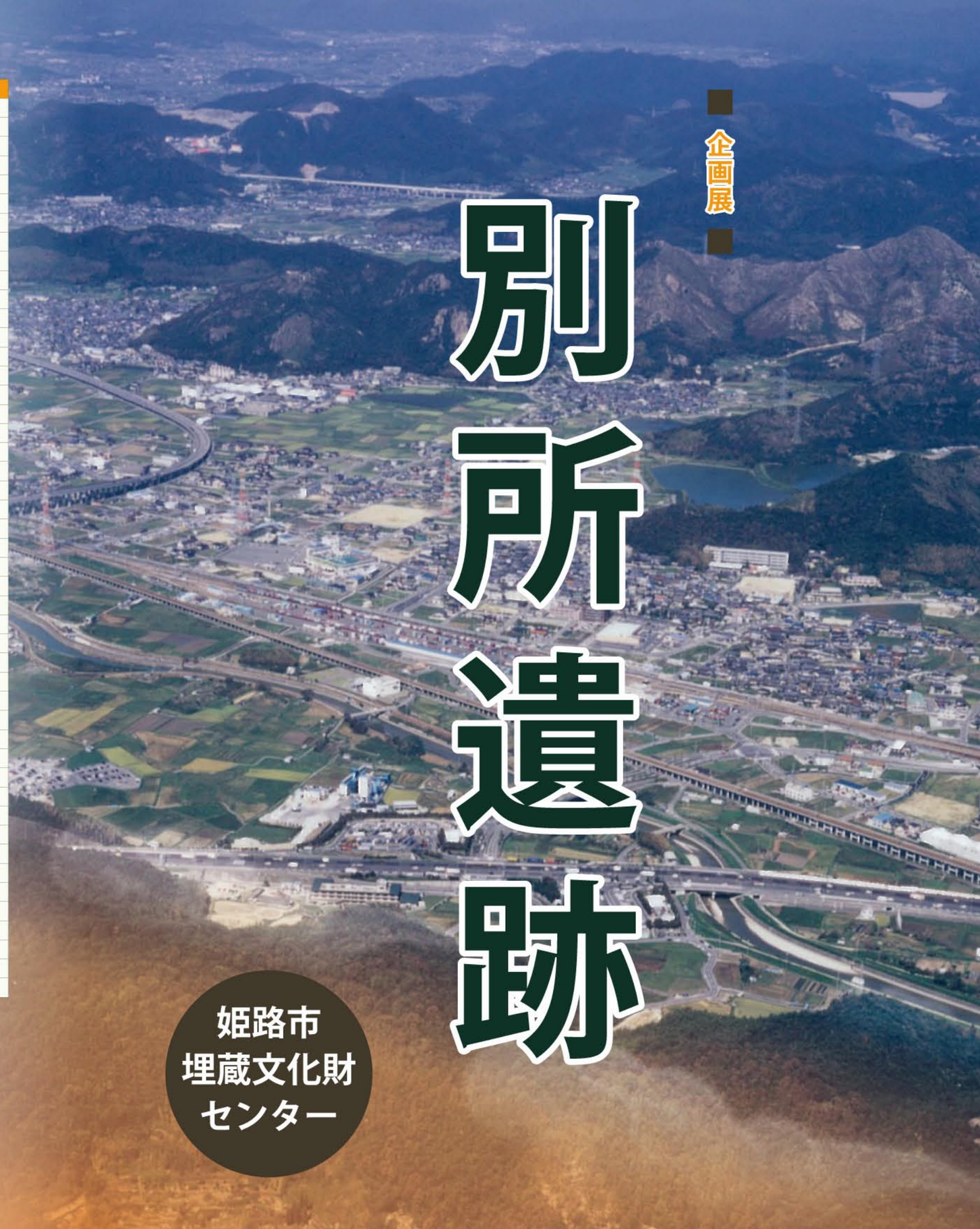
平成20年度冬季企画展「別所遺跡」 展示品目録

番号		品　名	員数	遺　跡　名	時代	所蔵・保管
1		ナイフ形石器	1点	別所遺跡(第1地点)	旧石器時代	姫路市埋蔵文化財センター
2		縄文土器	1点	別所遺跡(東芝崎)	縄文時代	姫路市埋蔵文化財センター
3		縄文土器	1点	今宿丁田遺跡	縄文時代	姫路市埋蔵文化財センター
4		弥生土器	1括	別所遺跡(第2地点)	弥生時代	姫路市埋蔵文化財センター
5		土師器　甕	2点	別所遺跡(第2地点)	古墳時代	姫路市埋蔵文化財センター
6	1	須恵器　杯蓋	1点	別所遺跡(第2地点)	古墳時代	姫路市埋蔵文化財センター
	2	須恵器　杯身	5点	別所遺跡(第2地点)	古墳時代	姫路市埋蔵文化財センター
	3	須恵器　短頸壺	1点	別所遺跡(第2地点)	古墳時代	姫路市埋蔵文化財センター
7	1	土師器　皿	2点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
	2	須恵器　杯蓋	1点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
	3	須恵器　杯身	1点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
	4	須恵器　蓋	2点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
	5	須恵器　杯	7点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
	6	須恵器　皿	2点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
	7	土師器　甕	2点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
	8	土師器　竈	1点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
8		土師器　竈	1点	坂元遺跡	奈良時代	兵庫県立考古博物館
9		鐙脚硯	1点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
10		鐙脚硯	1点	本町遺跡	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
11		土馬	1点	別所遺跡(第2地点)	奈良時代	姫路市埋蔵文化財センター
12		鞴羽口	2点	別所遺跡(第2地点)	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
13		瓦	1括	別所遺跡(第2地点)	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
14	1	土師器　皿	1点	別所遺跡(第2地点)	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
	2	土師器　杯	1点	別所遺跡(第2地点)	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
	3	須恵器　杯	3点	別所遺跡(第2地点)	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
	4	緑釉陶器　皿	1点	別所遺跡(第2地点)	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
15		須恵器　瓶	1点	別所構跡	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
16		須恵器　瓶	2点	北宿遺跡	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
17		軒平瓦（北宿式）	2点	北宿遺跡	平安時代	姫路市埋蔵文化財センター
18	1	青白磁　合子	1点	別所遺跡(第2地点)	鎌倉時代	姫路市埋蔵文化財センター
	2	土師器　皿	4点	別所遺跡(第2地点)	鎌倉時代	姫路市埋蔵文化財センター
19	1	土師器　鍋	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	2	瀬戸美濃焼　皿	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	3	火舎（亀甲文）	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	4	火舎	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	5	土師器　皿	7点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	6	染付　皿	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	7	石仏	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
20		土師器　鍋	1点	御着城跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
21		備前焼　擂鉢	1点	御着城跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
22		瀬戸美濃焼　天目茶碗	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
23		茶臼	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
24		茶臼	1点	御着城跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
25	1	瀬戸美濃焼　皿	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	2	唐津焼　皿	2点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	3	唐津焼　向付	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター
	4	石仏	1点	別所構跡	安土桃山時代	姫路市埋蔵文化財センター



企画展

別所遺跡

姫路市
埋蔵文化財
センター

凡　例

1. 本書は、平成21年1月18日（日）から4月19日（日）まで、姫路市埋蔵文化財センターで開催する企画展「別所遺跡」の展示解説として作成しました。
2. 一部の展示品は、展示替えを行うため、期間によっては展示されない場合があります。
3. 本企画展の開催及び本書の作成にあたり、多くの機関・関係者の皆様からご指導、ご協力をいただきました。ここにご芳名を記し、感謝の意を表します。（敬称略　50音順）
   井上一郎　北上直弘　中村　弘　藤田　淳　松本洋子　兵庫県立考古博物館　ふるさと歴史勉強会　別所公民館　別所地区連合自治会
4. 展示パネルの写真については福井　優が撮影しました。
5. 展示の企画は当センター専門職員が担当しました。
6. 本書の執筆・編集は小柴治子が担当し、北野弘子の助力を得ました。

姫路市埋蔵文化財センター
Himeji City Archaeological Research Center

〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL　(079)252-3950 / FAX　(079)252-3952
URL　http://www.city.himeji.lg.jp/maibun-center/
E-mail　maibun-center@city.himeji.hyogo.jp

ごあいさつ

姫路市南東部に位置する別所町は、古代山陽道から現代の国道２号線に至るまで幹線道路沿いの地域として人と物が盛んに行き交う土地でありました。

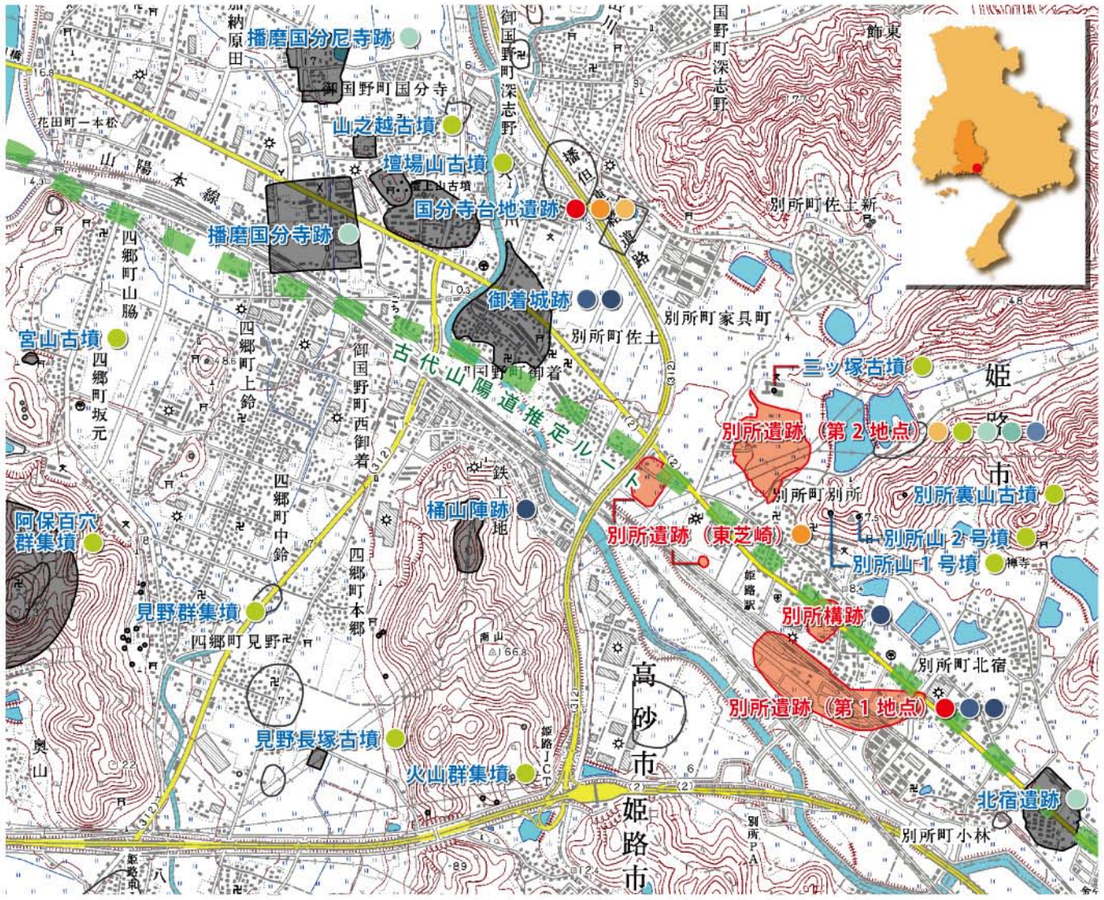
その別所町において平成３年から始まった区画整理事業は、別所に新たな歴史を刻むとともに、埋もれていた過去を再発見するきっかけともなりました。

今回の企画展では、区画整理に伴う発掘調査成果を中心に、“今は昔･･･”の別所をご紹介します。この展示が地域史に興味を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、この度の企画展の開催にあたり、ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成２１年１月１８日

姫路市埋蔵文化財センター館長



別所遺跡と周辺の遺跡

※遺跡名の後の●は遺跡の時代を表しています。

● 旧石器時代 ● 縄文時代 ● 弥生時代 ● 古墳時代 ● 奈良時代 ● 平安時代 ● 鎌倉時代 ● 室町時代 ● 安土桃山時代 ● 江戸時代

日本の歴史と別所の歴史

	日本の歴史（青字は姫路市内、赤字は別所でのできごと）	
旧石器時代	市内に明らかな人類の痕跡（市内最古の石器） 最寒冷期	別所遺跡（第１地点）でこの頃のナイフ形石器が出土
縄文時代	手柄山の尖頭器 土器を使い始める 定住生活のはじまり 東前畑の石鏃 縄文海進の最盛期 市内各地に遺跡が形成される（今宿丁田・辻井遺跡など）	別所遺跡（東芝崎）でこの頃の縄文土器が出土
弥生時代	稲作が伝わる 丁柳ヶ瀬遺跡 市内各地で遺跡が急増する 青銅器の製作が盛んになる 名古山・今宿丁田で銅鐸が作られる 大井川第６地点の銅鐸・鋳造関係 邪馬台国の女王卑弥呼が魏に遣いを送る（239 年） 甕塚古墳が築かれる	別所遺跡（第２地点）でこの頃の弥生土器が出土
古墳時代	壇場山古墳が築かれる 大仙古墳（伝仁徳陵）が築かれる 須恵器が作られるようになる 宮山古墳が築かれる	
飛鳥時代	市内各地に群集墳が築かれる 厩戸皇子（聖徳太子）が活躍 大化の改新 塩野六角墳・ドンデン古墳が築かれる	別所遺跡（第２地点）に集落ができ、周辺に古墳が築かれる［三ッ塚古墳］
奈良時代	平城京が造営される 山陽道と駅家が整備される 辻井遺跡で人形・馬形祭祀が行われる 奈良の大仏開眼・播磨国分寺の造営 平安京に都が移される 播磨に大きな地震がおきる	［北宿遺跡＝佐突駅家］ 別所遺跡（第２地点）で駅家経営に関連するとみられる掘立柱建物群が建てられる ⇓ （この頃廃絶か）
平安時代	白河上皇が院庁で院政をはじめる	
鎌倉時代	源頼朝が幕府を開く 古網干遺跡 承久の乱がおこる	弁慶地蔵の伝説 真禅寺石棺仏 別所遺跡（第２地点）で木棺墓がつくられる（周辺に集落が存在？） 六騎塚の伝説
室町時代	足利尊氏が幕府を開く 南北両朝が一つになる 応仁の乱がおこる 置塩城・御着城の築城	
安土桃山時代		別所構跡がつくられる（御着城落城時に廃絶か）
江戸時代	関が原の戦い 姫路城の築城	
明治	大政奉還 大日本帝国憲法発布	
大正	第一次世界大戦	旗振り山信号所を中継して、米相場が伝えられる。
昭和	太平洋戦争	
平成		JR ひめじ別所駅開業、区画整理事業竣工

旧石器時代

とても寒い時代だったようです。人々は、野生動物を追いかけ、移動しながら生活をしていました。

一方その頃の別所では・・・？

旧石器人の落し物？－ナイフ形石器出土－（約3万年前）

右の写真は、別所遺跡（第１地点）でみつかったナイフ形石器です。槍の穂先として長い柄の先につけ、動物を狩る狩猟具として使われていたと考えられています。

この道具は、石を叩き割った単純なものです。しかし、薄く割れる石材を厳選し、切れ味がよいように刃先を薄く鋭く形を整えるには豊富な知識と熟練の技術が必要です。

大切な道具である石器を落としていったその人は、果たして獲物をしとめられたのでしょうか？

ナイフ形石器

縄文時代

土器が発明され調理方法の幅が広がりました。暖かくなって食料が豊富になり、人々はムラを作って定住生活を始めました。

一方その頃の別所では・・・？

縄文時代晩期の土器が出土（約3，000年前）

別所遺跡（東芝崎）で縄文時代晩期の土器（深鉢）が出土しました。みつかった場所は、じめじめとした低湿地帯で、人が住めるような場所ではありませんでした。また、出土したのもこれ１点だけです。

別所町内では今のところ同時期のムラは知られていませんし、発掘調査でも発見されませんでした。

しかし、南東に約 3.5km 離れた高砂市の日笠山では、貝塚やお墓がみつかっていますので、そのあたりから木の実や魚を取りに出かけてきていたのかもしれません。

縄文土器が出土した様子

弥生時代

稲の栽培方法が日本列島に普及し、労働力と肥沃な土地を求めて各地で争いが起こりました。この時代の終わり頃、邪馬台国の女王卑弥呼が多くの国をまとめました。

一方その頃の別所では・・・？

一体どこから流れてきたの？－川の跡から弥生土器が出土－

別所遺跡（第２地点）で川の跡がみつかり、その中から弥生土器が出土しました。

発掘調査では同じ頃の集落跡は残念ながら確認できなかったので、この土器は 1.5km 西側の御国野町に存在する国分寺台地遺跡から流れ着いたものでしょうか。

しかし、土器があまり傷んでいないことから、すぐ近くで流れ込んだ可能性も考えられます。

今はわかっていませんが、将来別所のどこかで弥生時代の集落跡が発見されるかもしれません。

川から出土した弥生土器

古墳時代

大仙古墳（伝 仁徳天皇陵）に代表される、たくさんの古墳がつくられました。古墳をつくることはすなわち、倭国の大王を中心とした勢力と同盟を結んだ証でした。

一方その頃の別所では・・・？

ついに発見！古墳の主が治めたムラ？ －竪穴住居跡を検出－（約1，400年前）

別所遺跡（第２地点）では、１５棟の竪穴住居跡を確認し、古墳時代後期のムラがあったことがわかりました。周辺には、三ツ塚古墳、別所山古墳などの存在が知られていましたが、発掘調査では古墳に葬られた人々が生きていた頃の日常を垣間見ることができました。

別所の竪穴住居跡は、一辺６m 前後の方形が多く、北側か東側の壁にかまどが作られていました。部屋の中に仕切りは無く、今で言うキッチン付約 22 畳のワンルームです。ここで何人くらいが生活していたのでしょうか。

竪穴住居跡（手前中央がかまど跡）

奈良～平安時代

奈良や京都に都が置かれ、天皇を中心として法律で国を治める律令国家ができました。古代山陽道をはじめ、道路や役所などが各地で整備され国ごとに国分寺が造られました。また、貴族を中心とした王朝文化が花開き、「源氏物語」などが書かれました。

一方その頃の別所では・・・？

佐突駅家運営責任者の館跡？

ー大型の掘立柱建物跡群検出ー（約1，200年前）

別所遺跡（第２地点）では、84 棟の掘立柱建物跡がみつかりました。

掘立柱建物とは、地面に穴を掘って柱を立て、その穴を埋めて柱を固定した建物です。これは当時の一般的な建築方法で、礎石の上に柱を立て、瓦を葺く建物はお寺や限られた公共施設だけでした。

ところがこれらの建物群には、普通の民家とはいいきれない特徴がありました。

では、いったいどのような性格の建物だったのでしょうか？

大型の掘立柱建物跡

1. 柱の穴が四角く、柱が太い

大きな四角い柱穴の建物は、都の建物にならった建て方で、地方では役所か有力者の屋敷でしか使われません。

2. 同じ方向を向いた建物が並んでいる

同じ方向を向いた建物が、間隔をあけて計画的に建てられていました。

3. 硯が出土＝文字を書く必要がある場所である

硯と筆は戸籍を作ったり、荷札を書いたりと、役所に関連した場所では必ず必要なものです。また、炉に風を送るための鞴の羽口も出土しています。金属などを加工したのでしょうか。

左：鞴の羽口　中：蹄脚硯の破片
右：土馬の足の破片

4. 駅家との距離が近い

別所遺跡（第２地点）は、佐突駅家推定地である北宿遺跡から約 1.5 ㎞と比較的近い場所にあります。

古代山陽道と駅家のこと

column

別所町の東部にある北宿遺跡は、古代山陽道の「佐突駅家跡」ではないかと推測されています。

駅家とは、奈良時代に作られた官道（= 国道）に一定距離ごとに置かれた建物で、急用の役人が馬を交換したりするための施設です。その頃、馬は陸路で最も速い交通手段だったのです。

現在の北宿遺跡の周辺

当時の主な道路の中でも山陽道は、中国などとの外交の玄関口である九州の大宰府と都を結ぶ最も重要な道路と位置づけられていました。

出土した軒平瓦（北宿式）

駅家の建物も海外の使節団をもてなすためにことのほか立派に作られたようです。柱は朱塗りで土台に礎石を使い、白漆喰の壁に屋根は瓦葺であったことが、たつの市に所在する小犬丸遺跡（布勢駅家跡）の発掘調査からもわかっています。

現在は様変わりしていますが、別所にもかつてそのような建物が存在していたのかもしれません。

5. 建物の方向が変わっている

佐突駅家は一度廃止されたものが再建されたり、再び廃止となった時期が文献資料からわかっています。その時期と掘立柱建物跡が大きく方向を変えて建て替えられた時期が同じ頃です。

前にあげた情報を合わせて考察したところ、今の段階では、別所遺跡（第２地点）の掘立柱建物跡は、佐突駅家を運営するための施設もしくは運営の責任を担う有力者の館跡である可能性が高いと考えています。

もちろんこの結論はまだ推測の段階で、今後の調査によって、新しい答えが導き出されるかもしれません。皆さんも今わかっている情報を元に、別所の掘立柱建物跡は一体何だったのだろうと想像してみてください。

奈良時代の土器

平安時代の土器

※イラスト「兵庫県立考古博物館コンセプトブック」より

鎌倉時代

武士の時代到来。源頼朝が鎌倉で幕府を開きました。「御成敗式目」という武士の法律ができ、質実剛健を本分とする武家文化が広まっていきました。

一方その頃の別所では・・・？

木棺墓を確認（約８００年前）

別所遺跡（第２地点）でお墓がみつかりました。遺体を木のお棺に納めて埋めたあと、上に拳から頭の大きさくらいの川原石を積み上げていました。

ここからは、大小の土師器のお皿や、中国産の青白磁の合子などがみつかりました。

お墓もお供えの道具も立派なものでしたので、葬られたのは、比較的裕福な人だったようです。

木棺墓から出土した土器
左：青白磁合子　右：土師器皿

室町時代以降

足利尊氏が室町幕府を開きましたが、重税に苦しむ農民が一揆を起こすなど、争いが絶えませんでした。その後「下・剋・上」の戦国時代がはじまり、戦乱の世が続きました。

一方その頃の別所では・・・？

秀吉軍の播磨攻めの犠牲に!?
―「別所構居」の堀跡？検出―（約４００年前）

発掘調査を実施した別所構跡は、もともと構（別所構居）の伝承が残る場所でした。

構とは城館の防御施設の総称ですが、防御施設を備えた平地の館跡のこともそう呼んでいます。

調査では、柱跡、井戸、土坑などとともに３条の溝がみつかりました。これらは東西方向の溝２条と南北方向の溝１条で、ちょうどコの字状の位置関係となっていました。囲まれた内側は一辺約 50m で、平均的な構の規模と同じくらいの広さになります。

堀の可能性がある南側の溝

これらのうち、南側の東西方向の溝は、幅約 5m、深さ約 2mと深く、断面が逆台形をしていました。

溝からは、安土桃山時代（約400 年前）の天目茶碗や茶臼などが出土しました。

溝や土坑から出土した土器

茶臼（下部は御着城跡の出土品）

文献に見る別所構居

column

別所構居の記述は、江戸時代の医者である平野庸脩が著した地誌『播磨鑑』や、大正年間に印南郡役所が発刊した郡史である『印南郡誌』にみられます。

これらの文献によると、構居の主は、大塩半左衛門という人物だったそうです。

また、安土桃山時代に羽柴秀吉が中国地方を平定するために播磨に入った時、敵方にまわった御着城主の小寺氏に味方して一緒に滅ぼされたことが書かれています。

構居があった場所についても、日吉神社の馬場先から西南の位置に構居の字が残っていること、実際院の西を南に流れる溝が構の溝であると伝えられているといったことが書かれていて、発掘調査をしたところがその場所にあたります。

別所構跡＝別所構居？！

発掘調査成果と、文献の内容を照らし合わせると、検出した遺構は、構の堀と館の跡である可能性が十分に考えられます。ただ、文字資料などは出土しなかったので、その確証を得ることはできませんでした。

しかし、南側の溝は、江戸時代の土器が出土しなかったことから、安土桃山時代の終わりごろに人工的に埋められたようです。

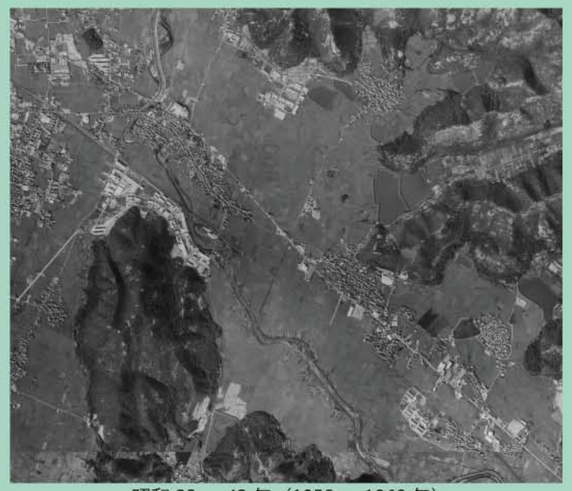
周辺を片付けたとみられる土坑

出土した刀

また、江戸時代になって周辺に落ちていたものを片付けて埋めたとみられる土坑には、お皿などの食器とともに、焼けた土壁のようなものが大量に埋まっていました。

ほかにも、お墓と考えられる土坑からは、刀が出土していて、まさに“つわものどもが夢の跡”といったところでしょうか。

航空写真で見る別所町の移り変わり



昭和 33 ～ 43 年（1958 ～ 1968 年）
田園風景がひろがっています。

昭和 61 年（1986 年） 区画整理前の様子
姫路バイパスと播但連絡道ができました。

平成 18 年（2006 年） 区画整理後の様子
JR ひめじ別所駅ができました。

①白髭神社

拝殿に四季農耕図や、伊勢神宮参詣図などの絵馬が奉納されています。

②三ッ塚古墳

古墳時代後期の“ 横穴式石室 ”の古墳です。石材が露出しています。

③弁慶地蔵

弁慶が書写から京都に帰る途中立ち寄り、村の娘との間に、男の子をもうけた伝説があり、子宝地蔵として有名です。

④日吉神社

雨乞神社として信仰されています。秋に行なわれる獅子舞は、市指定重要無形民俗文化財に指定されています。

⑤真禅寺石棺仏

家型石棺の蓋石に、阿弥陀坐像が刻まれています。鎌倉時代（1265年）の銘があります。

⑥旗振り信号跡と碑

明治－大正時代、大阪堂島の米相場を伝える手段として旗振り通信が使われ、ここが姫路への中継地となりました。

⑦六騎塚

「太平記」に登場する備後守範長主従六騎が足利軍に追われて、自害した場所とされています。

⑧一願寿福地蔵尊石棺仏

縄掛突起のある石棺の破片をまつっています。その形から母乳の出がよくなると信仰されているそうです。

⑪塞の神

道の分岐点を守る神様です。
ここのご神体は、盃状の穴があいていて、大変珍しいです。

⑩近世山陽道と国道2号線

旧街道と、新しい道の交差点です。

⑨仏心寺五輪塔石棺

鎌倉時代につくられたとされる五輪塔と近くの古墳の石室から持ち出されたと考えられる石棺です。

別所の歴史散策MAP

※「別所の史蹟めぐり」ふるさと歴史勉強会編（北上道弘氏制作）を一部改変